

証券コード

5020



JXホールディングス

2016年度 第1四半期決算説明資料

取締役 常務執行役員 大場 邦光

2016年8月4日



エネルギー・資源・素材の^{みらい}Xを。

JXホールディングス株式会社

目次

2016年度第1四半期決算

- 2016年度の基本方針
- 2016年度の取り組み
- 4月～7月の状況
- 事業環境
- 2016年度第1四半期決算概要

2016年度上期見通し

- 2016年度上期見通し
- 主なトピックス
- 前提条件
- 感応度

取締役 常務執行役員
大場 邦光



2016年度 第1四半期決算
(2016年4月1日～2016年6月30日)

2016年度の基本方針

経営資源配分、キャッシュフローの管理・創出

設備投資

- 設備投資の圧縮
設備投資額(資産売却額ネット後)を減価償却費の範囲内に抑制
- 中下流事業への投資配分のシフト
- 年度ごとのキャッシュアウトの平準化によるリスクの分散

バランスシートの改善

- 投資抑制、資産売却の加速によるバランスシートの改善・スリム化

各事業の基本戦略

- 上流事業 : 選択と集中による設備投資の削減と事業再構築
カセロネスを中心に投資実行済み案件からの確実なリターンの確保
- 中下流事業 : 効率化・コスト削減の徹底による既存事業の収益力強化
技術立脚型事業の育成

2016年度の取り組み

経営資源配分、キャッシュフローの管理・創出

設備投資・資産売却(約1,500億円)は、計画通りに実行予定

各事業における取り組み

エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ● 既存事業の収益力強化 ● 次世代の柱となる事業の育成 ● 技術立脚型・高付加価値製品の取り組み強化 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ サプライチェーンの効率化、輸出等による需給適正化対応 ➢ ベトナム ペトロリメックス社との戦略的協業契約の締結、同社への出資 ➢ マレーシア ペトロナスとの戦略的パートナーシップ強化(「ペトロナスLNG9」社への出資・LNG販売支援) ➢ KDDI(株)と電気事業における提携開始
石油・天然ガス開発	<ul style="list-style-type: none"> ● 選択と集中・事業再構築 ● 収益性の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 英国北海権益・オーストラリア権益の売却 ➢ インドネシア タンゲーLNGプロジェクトの拡張 ➢ コスト削減の上積み
金属	<ul style="list-style-type: none"> ● 既投資案件からのリターンの確保(カセロネス) 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ コンサルティング・ファームの導入による改善計画の策定・実行 ➢ コスト削減・生産効率の改善の強化

4月～7月の状況

エネルギー

- ◆ 白油4品マージンは、タイムラグを主因とし、一時的に悪化
- ◆ パラキシレンマージン(ドルベース)は堅調に推移
- ◆ 円高の影響により、輸出燃料油、石化製品のマージン縮小

石油・天然ガス開発

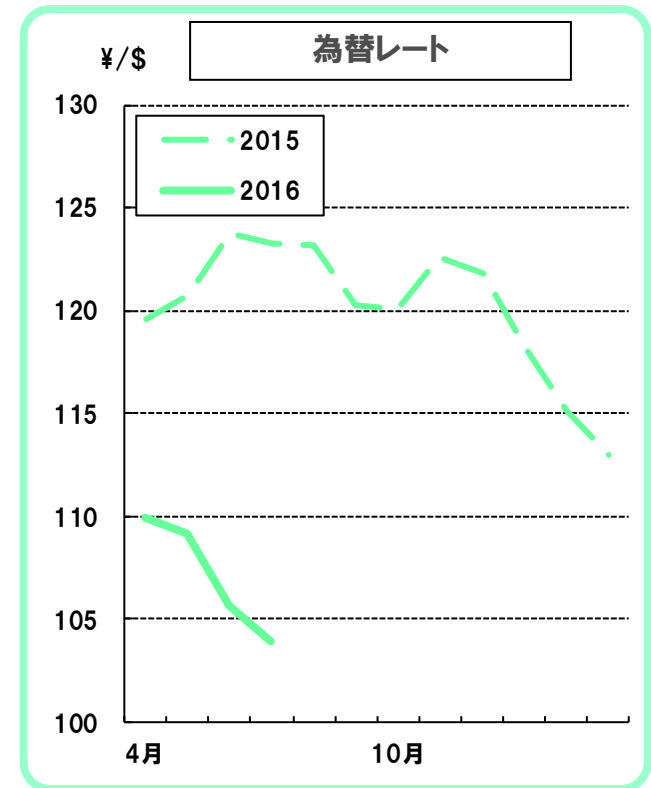
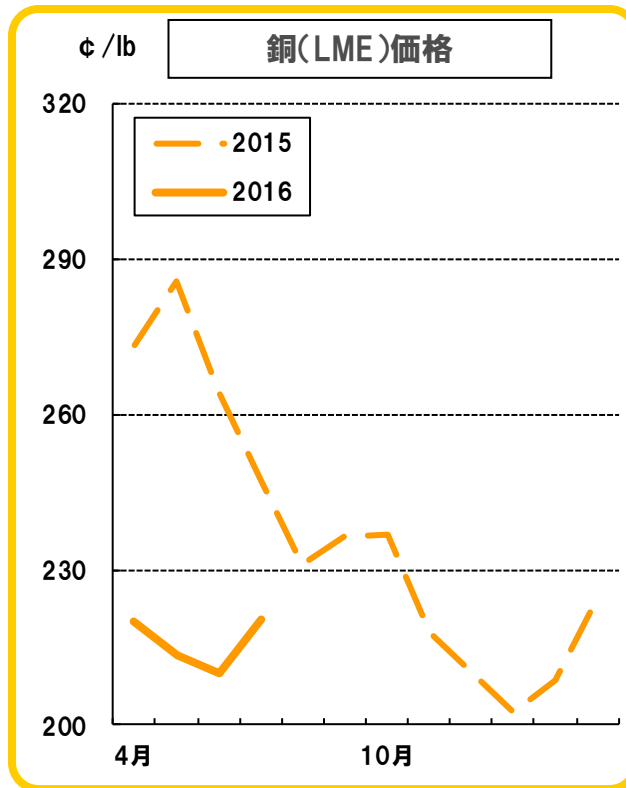
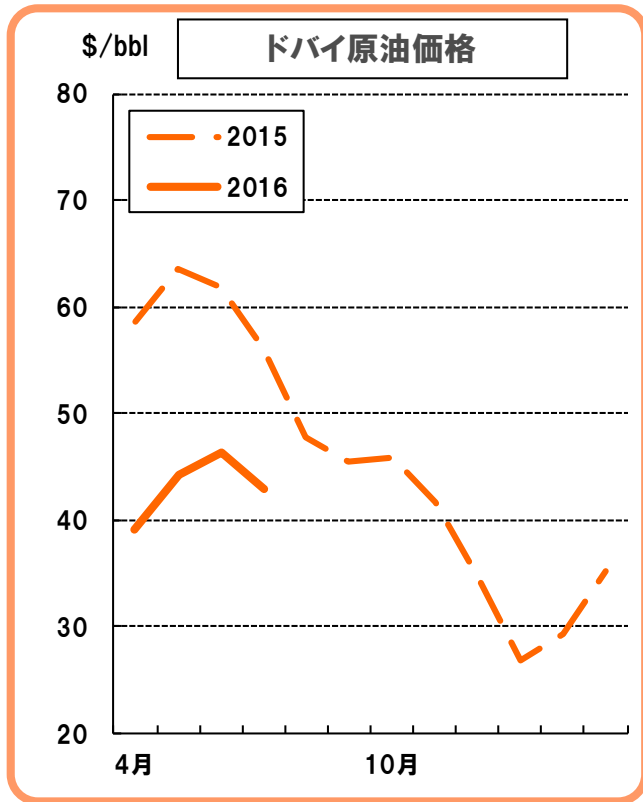
- ◆ カナダ アルバータ州の山火事の影響により、合成原油の生産量減。現在は生産再開

金属

- ◆ カセロネス
 - 生産量は、悪天候による稼働率低下や粗鉱中銅分の回収率の低下などにより、計画比減少
 - コンサルティング・ファームとの協議を踏まえて、生産計画を見直し
 - コスト削減・操業改善等、採算性向上のための施策を実行中
- ◆ 円高の影響により、製錬、電材加工事業等のマージン縮小

事業環境① 原油価格・銅価格・為替レート

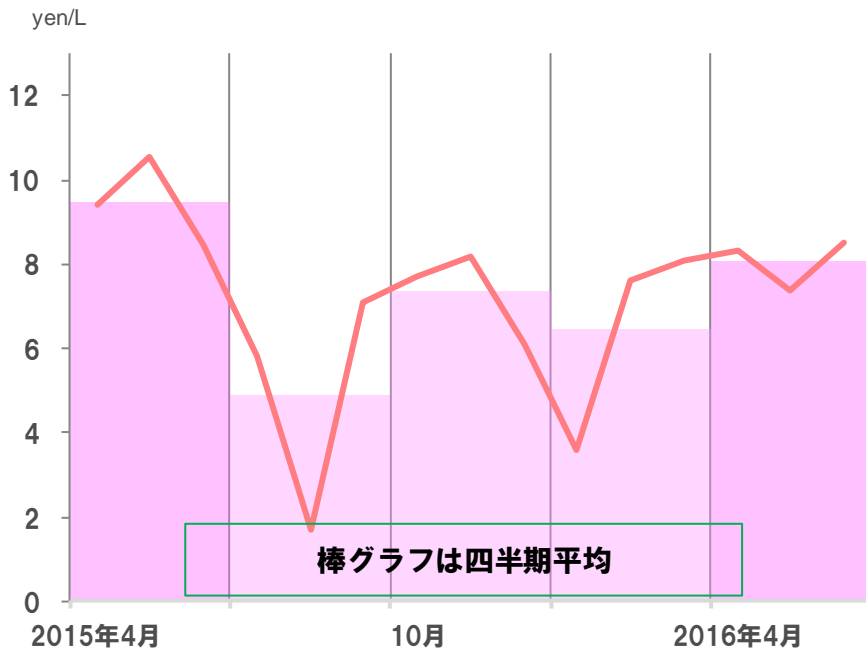
- 原油価格はバレルあたり40ドルから小幅に上昇
- 銅価格は6月にかけて下落基調で推移
- 為替レートは、英国EU離脱の影響懸念などにより円高方向へ



事業環境② 白油4品・パラキシレンマージン推移

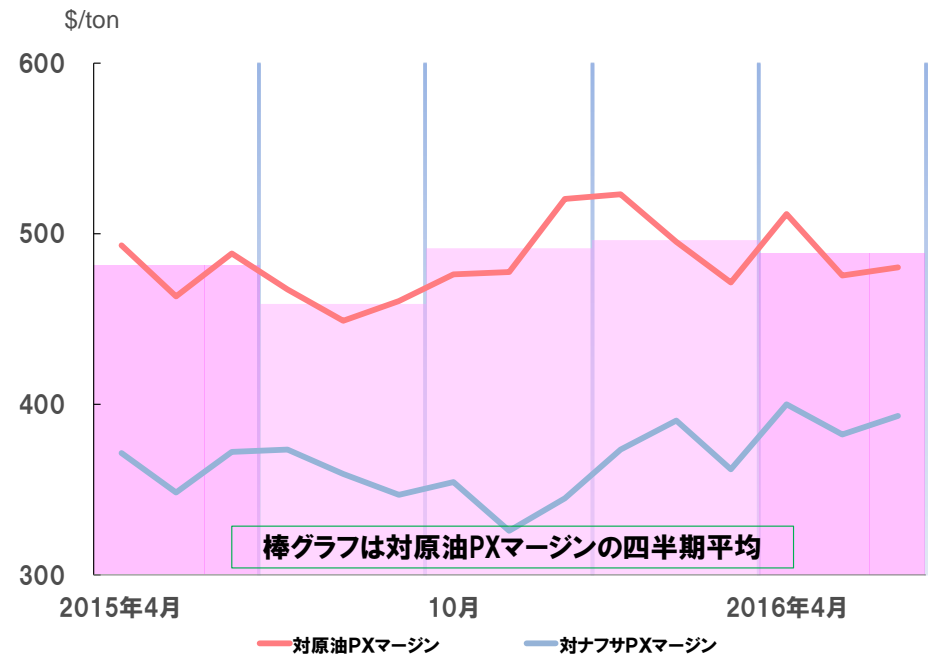
- 白油4品マージンは、前年同期比悪化
- パラキシレンマージンは概ね前年同期並み

白油4品マージン推移



* スポット価格－全国通関原油CIF(石油税・金利含み)

パラキシレンマージン推移



* ACP未決の月については、スポット価格の平均値を使用

2016年度 第1四半期決算概要 (前年比)

* 3月から5月の平均(≒到着ベース)

原油代(トウバイ) (\$/B) *

銅 価 (¢/lb)

為替レート (¥/\$)

売上高

営業利益

営業外損益

経常利益

(うち在庫影響)

在庫影響除き経常利益

特別損益

親会社株主に帰属する当期純利益

2015年度 第1四半期 (実績)

59

 暦年へ-ス
(264) 275

 暦年へ-ス
(119) 121

(億円)

23,041

797

173

970

(145)

825

▲41

533

2016年度 第1四半期 (実績)

40

 暦年へ-ス
(212) 215

 暦年へ-ス
(115) 108

(億円)

18,088

267

158

425

(95)

330

▲119

252

差 異

▲19

▲32%

 暦年へ-ス
(▲52) ▲60 (▲20%) ▲22%

 暦年へ-ス
(▲4) ▲13 (▲3%) ▲11%

(億円)

▲4,953

▲21%

▲530

▲66%

▲15

▲9%

▲545

▲56%

(▲50)

(▲34%)

▲495

▲60%

▲78

-

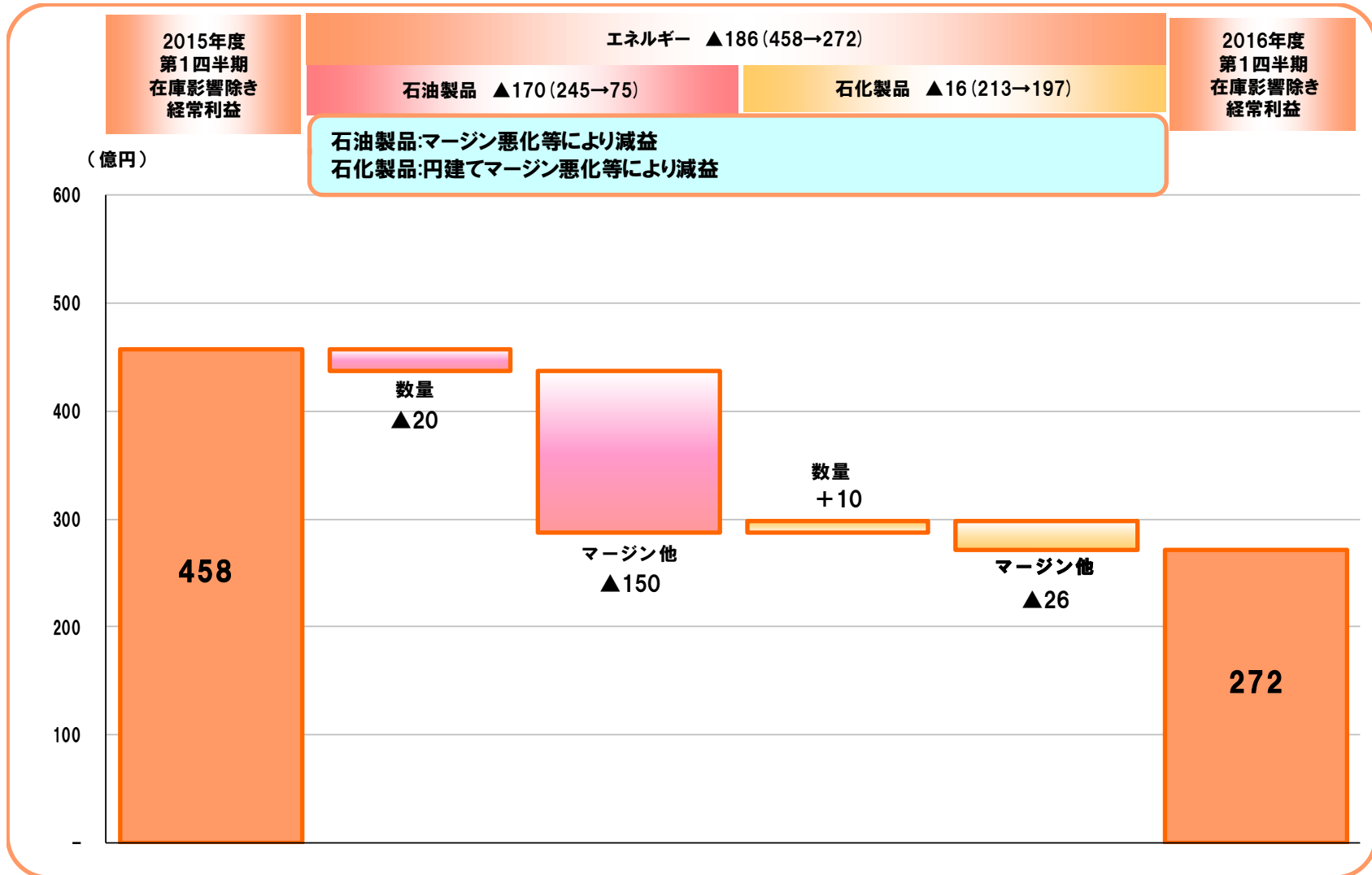
▲281

▲53%

2016年度 第1四半期 セグメント別経常利益 (前年比)

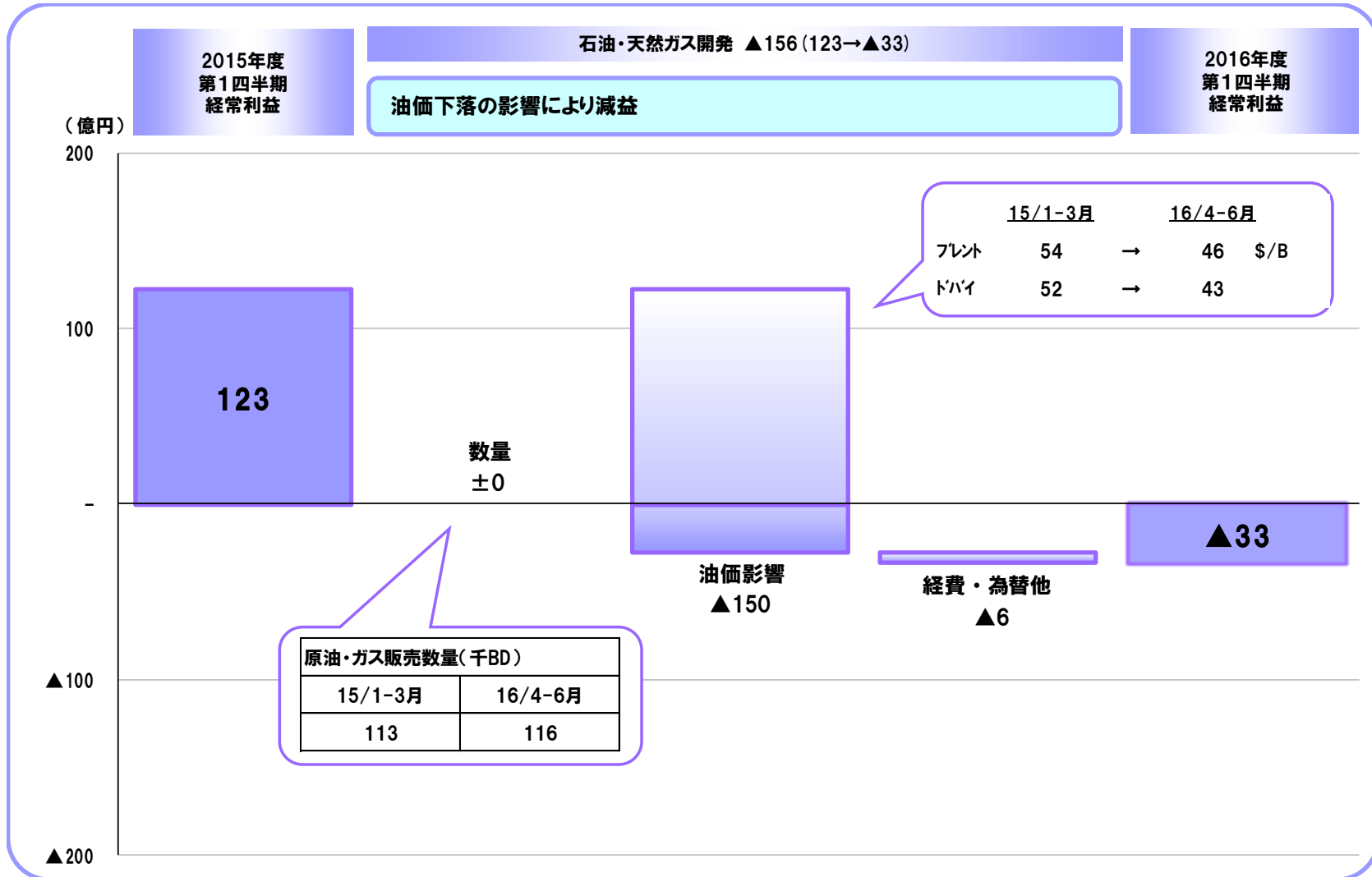
	2015年度 第1四半期 (実績)	2016年度 第1四半期 (実績)	差 異	
	(億円)	(億円)	(億円)	
エネルギー事業	603	374	▲229	▲38%
（うち在庫影響）	（ 145 ）	（ 102 ）	（ ▲43 ）	▲30%
在庫影響除き	458	272	▲186	▲41%
（うち石油製品）	（ 245 ）	（ 75 ）	（ ▲170 ）	▲69%
（うち石油化学製品）	（ 213 ）	（ 197 ）	（ ▲16 ）	▲8%
石油・天然ガス開発事業	123	▲33	▲156	-
金属事業	156	▲14	▲170	-
（うち在庫影響）	（ - ）	（ ▲7 ）	（ ▲7 ）	-
在庫影響除き	156	▲7	▲163	-
（うち上流）	（ ▲3 ）	（ ▲120 ）	（ ▲117 ）	-
（うち中下流）	（ 159 ）	（ 113 ）	（ ▲46 ）	▲29%
その他	88	98	+10	+11%
経常利益 計	970	425	▲545	▲56%
在庫影響除き	825	330	▲495	▲60%

2016年度 第1四半期 エネルギー事業 経常利益増減 (前年比)

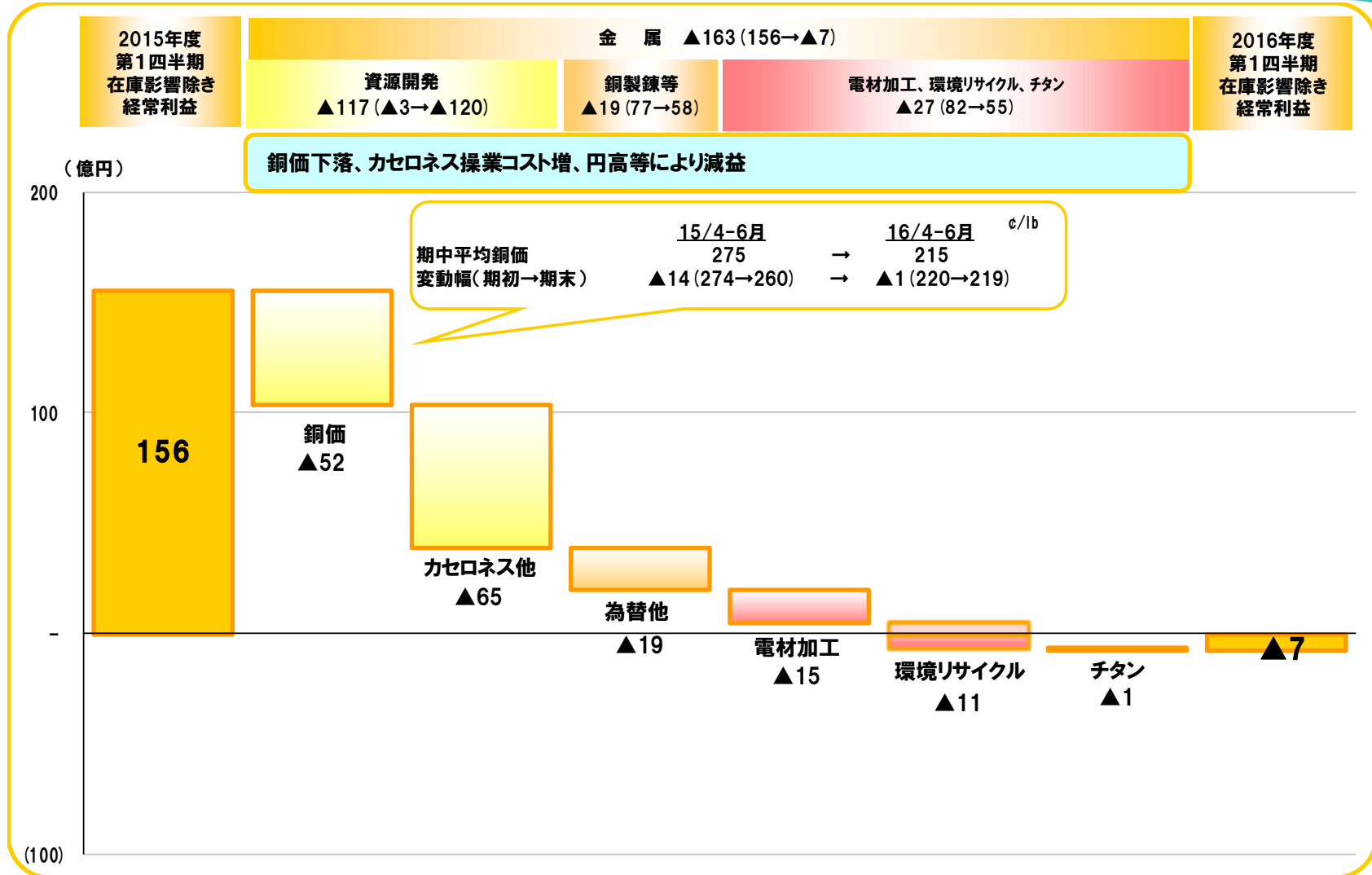


2016年度 第1四半期 石油・天然ガス開発事業 経常利益増減

(前年比)



2016年度 第1四半期 金属事業 経常利益増減 (前年比)



2016年6月末 連結バランスシート

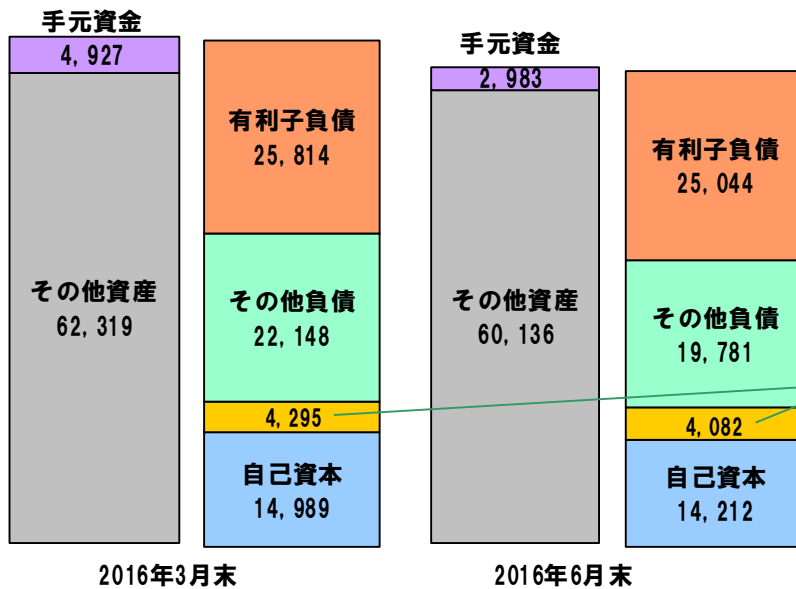
2016年度 第1四半期 連結キャッシュフロー

連結バランスシート

(億円)

総資産:67,246

総資産:63,119



手元資金を除いたネット有利子負債は1,174億円増加(ネットキャッシュフローのマイナス[▲1,755億円]等により)

非支配株主持分

	2016年3月末 (実績)	2016年6月末 (実績)
自己資本比率	22.3%	22.5%
ネットD/Eレシオ	1.39	1.55

連結キャッシュフロー

(億円)

経常利益	425
減価償却費	658
運転資金増減ほか	▲1,628
営業キャッシュフロー	▲545
投資キャッシュフロー	▲910
フリーキャッシュフロー	▲1,455
配当他	▲300
ネットキャッシュフロー	▲1,755

2016年度上期決算見通し (2016年4月1日～2016年9月30日)

- ✓ 2016年7月以降の見通し前提は、
原油価格45ドル/バーレル、銅価230セント/ポンド、為替レート105円/ドル

* 上期の業績予想は、前回公表(2016年5月11日)を見直しています。
通期の連結業績予想については、前回公表を据え置いています。

セグメント別経常利益	(参考)前回公表	
	2016上期見通し	2016通期見通し
エネルギー	530	1,700
開発	▲60	▲230
金属	70	300
その他	160	430
小計(在庫影響除き)	700	2,200
在庫影響	400	400
合計	1,100	2,600

2016年度 上期見通し 概要 (前回見通し比)

* 3月から8月の平均(≒到着ベース)

原油代(ト'ハイ) (\$/B) *
銅 価 (¢ /lb)
為替レート (¥/\$)
売上高
営業利益
営業外損益
経常利益 (うち在庫影響)
在庫影響除き経常利益
特別損益
親会社株主に帰属する当期純利益

2016年度 上期見通し (5月公表)	
	39
暦年へ-ス (221)	230
暦年へ-ス (113)	110
	(億円)
	41,300
	1,100
	100
	1,200
	(200)
	1,000
	▲240
	520

差 異	
	+3
暦年へ-ス (▲8)	▲8
暦年へ-ス (▲1)	▲3
	(億円)
	▲1,600
	▲250
	+150
	▲100
	+200
	▲300
	+110
	+80

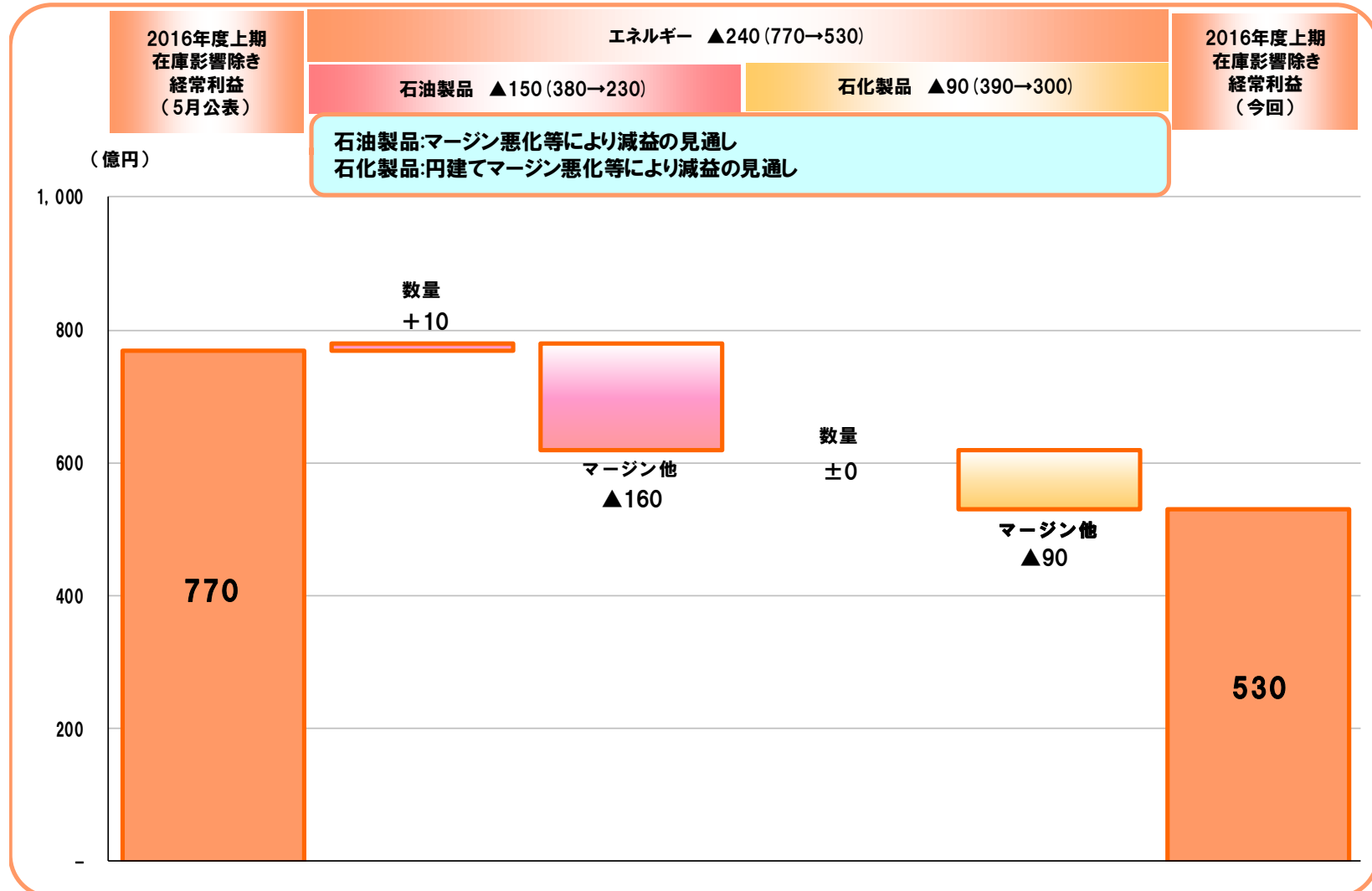
2016年度 上期見通し (今回)	
	42
暦年へ-ス (213)	222
暦年へ-ス (112)	107
	(億円)
	39,700
	850
	250
	1,100
	(400)
	700
	▲130
	600

(参考) 2015年度 上期実績	
	57
暦年へ-ス (269)	256
暦年へ-ス (120)	122
	(億円)
	45,526
	▲455
	178
	▲277
	(▲1,187)
	910
	▲135
	▲449

2016年度 上期見通し セグメント別経常利益（前回見通し比）

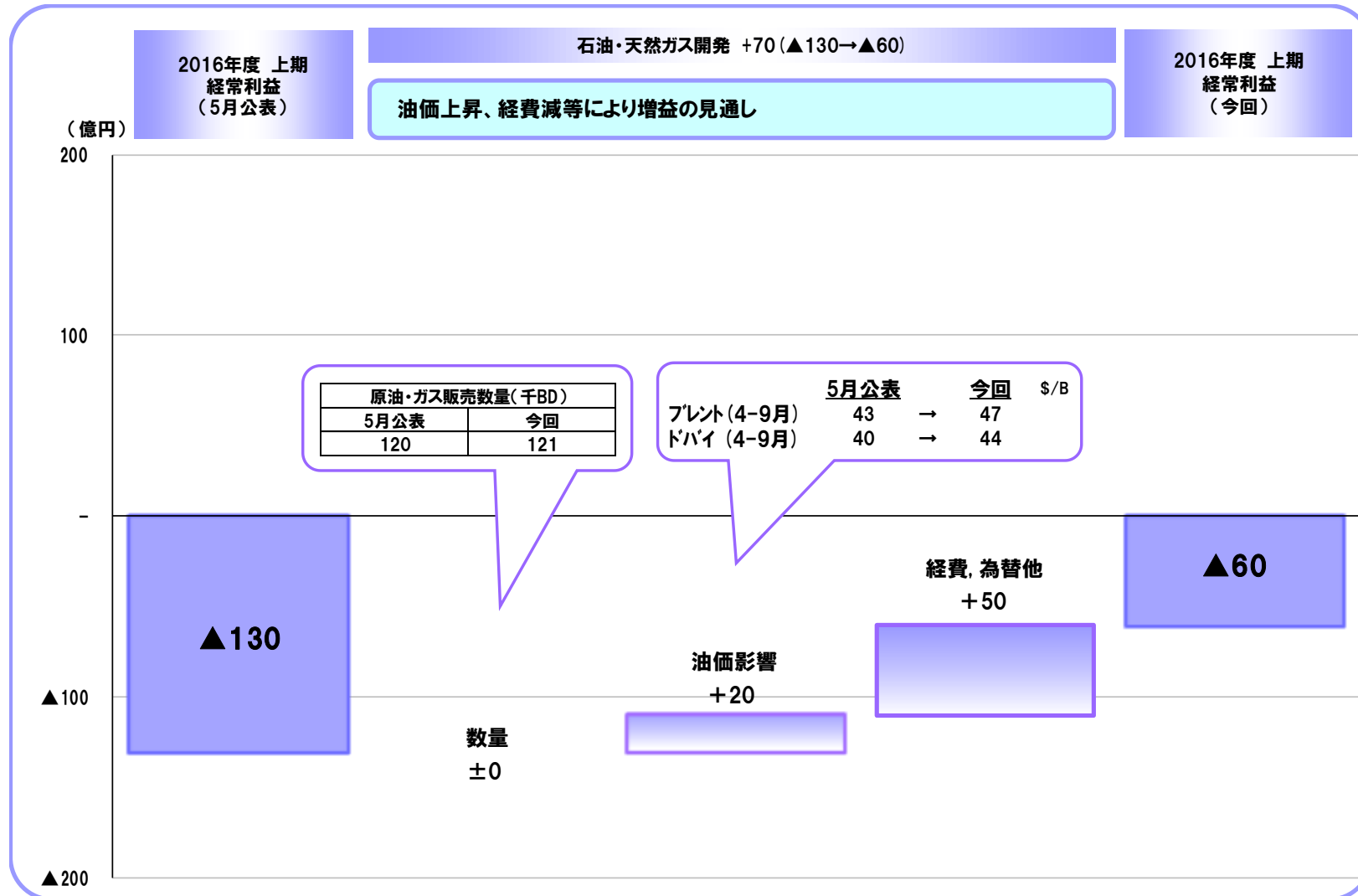
	2016年度 上期見通し (5月公表)	差異	2016年度 上期見通し (今回)	(参考) 2015年度 上期実績
	(億円)	(億円)	(億円)	(億円)
エネルギー事業	970	▲40	930	▲724
（うち在庫影響）	(200)	(+200)	(400)	(▲1,166)
在庫影響除き	770	▲240	530	442
（うち石油製品）	(380)	(▲150)	(230)	(117)
（うち石油化学製品）	(390)	(▲90)	(300)	(325)
石油・天然ガス開発事業	▲130	+70	▲60	173
金属事業	200	▲130	70	106
（うち在庫影響）	(-)	(-)	(-)	(▲21)
在庫影響除き	200	▲130	70	127
（うち上流）	(▲45)	(▲85)	(▲130)	(▲55)
（うち中下流）	(245)	(▲45)	(200)	(182)
その他	160	-	160	168
経常利益 計	1,200	▲100	1,100	▲277
在庫影響除き	1,000	▲300	700	910

2016年度 上期見通し エネルギー事業 経常利益増減 (前回見通し比)

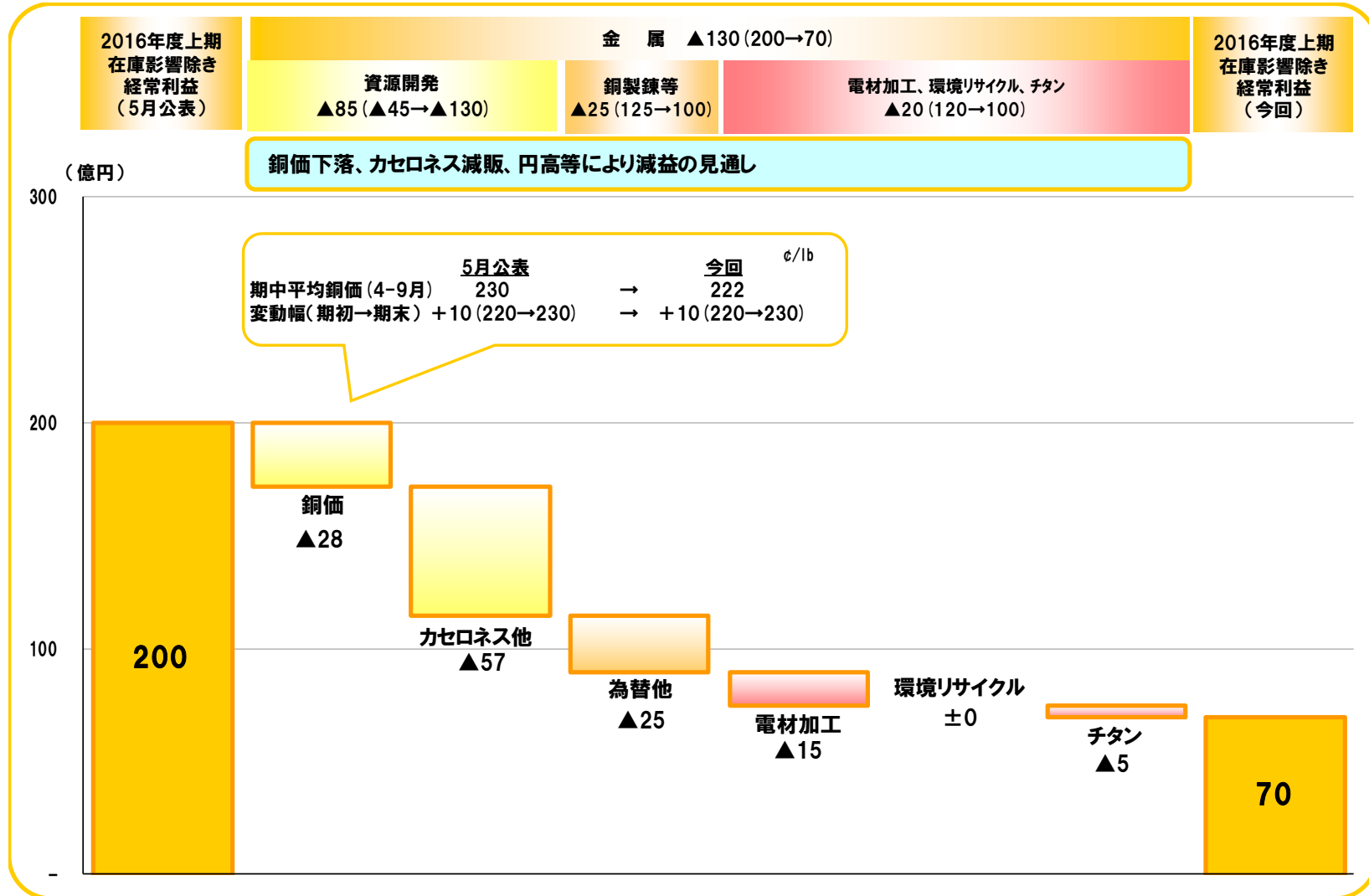


2016年度 上期見通し 石油・天然ガス開発事業 経常利益増減

(前回見通し比)



2016年度 上期見通し 金属事業 経常利益増減 (前回見通し比)



主なトピックス(2016年4月～2016年7月)

JXHD

7月 第12、13、14回 無担保社債発行

JXエネルギー

- 4月 電力小売自由化スタート、「ENEOSでんき」の販売開始
- 4月 韓国 大象(デサン)(株)とアスタキサンチン製造受委託契約を締結
- 4月 ベトナム ペトロリメックスとの株式引受契約および戦略的協業契約を締結
- 4月 KDDI(株)と電気事業における提携開始
- 6月 マレーシア「ペトロナスLNG9」社への資本参画実施、ペトロナスLNG社との販売支援契約締結
- 6月 川崎製造所 ポリイソブチレン(石油化学品)製造装置の能力増強の検討開始

JX石油開発

- 5月 英国北海カリーンガス田の権益を一部売却
- 6月 英国北海ウトガルドガス・コンデンセート田の権益を売却
- 7月 インドネシア タングーLNG拡張プロジェクトへの投資決定

JX金属

- 4月 世界最薄のチタン銅箔・コルソン合金箔を開発

前提条件

		2015年度			2016年度		
		1Q	上期	通期	1Q	上期	通期
		実績	実績	実績	実績	見通し (8月公表)	見通し (5月公表)
共通	為替レート(円/ドル)	121	122	120	108	107	110
エネルギー	トバイ原油価格<年度>(ドル/バレル) ^{*1}	59	57	47	40	42	40
石油・天然 ガス開発	原油換算販売数量(千バレル/日) ^{*2}	113	116	121	116	121	122
	ブレント原油価格<暦年>(ドル/バレル) ^{*2}	54	58	53	46	47	43
金属	銅価格LME<年度>(セント/ポンド)	275	256	237	215	222	230
	銅鉱山権益生産量(千トン/期・年) ^{*3}	39	81	172	45	95	229
	PPC銅販売量(千トン/期・年)	144	308	595	153	309	634
	圧延銅箔販売量(千km/月)	5.0	5.1	4.9	4.8	5.4	5.5
	精密圧延品生産品販売量(千トン/月)	3.7	3.8	3.7	3.8	3.9	4.0
	環境リサイクル金回収量(トン/期・年)	1.6	3.5	6.4	1.6	2.7	7.0

*1 到着ベース *2 2015年度は1-12月、2016年度は4-3月(決算期変更による)

*3 12月決算会社分:1-12月、3月決算会社分:4-3月

感応度

■前提条件(2016年7月以降)

為替:105円/ドル

原油:45ドル/バーレル
(ドバイスポット)

銅価:230セント/ポンド

■市況変動による2016年度上期経常利益への影響額

項目	変動幅	変動項目	影響度
為替レート	5円/ドル 円高	エネルギー(燃費減、石化マージン悪化等)	(-) 20
		石油・天然ガス開発	(+) 10
		金属(マージン悪化、為替換算差等)	(-) 10
		小計	(-) 20
		在庫影響	(-) 180
		合計	(-) 200
原油FOB (ドバイスポット)	5ドル/バーレル 下落	エネルギー(燃費減等)	(+) 10
		石油・天然ガス開発	(-) 20
		小計	(-) 10
		在庫影響	(-) 430
		合計	(-) 440
銅価(LME)	10セント/ポンド下落	金属	(-) 20
		合計	(-) 20

本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。かかる要因としては、

- (1) マクロ経済の状況またはエネルギー・資源・素材業界における競争環境の変化
 - (2) 法律の改正や規制の強化、
 - (3) 訴訟等のリスク など
- が含まれますが、これらに限定されるものではありません。